

 住江織物株式会社

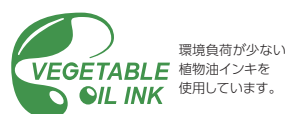
本書に関するお問い合わせ先

住江織物株式会社 CSR推進室
〒542-8504 大阪市中央区南船場3-11-20
TEL:06-6251-6817 FAX:06-6251-6806
E-Mail:csr@sin.suminoe.co.jp
URL <https://suminoe.co.jp/>

住江織物グループ
CSRレポート
2019



この冊子に使用している用紙は、世界の森林資源の責任ある利用を保証しています。



印刷工程で有害廃液を出さず、湿し水が不要な「水なし印刷方式」を採用しています。



ユニバーサルデザイン(UD)の考えに基づいた見やすいデザインの文字を採用しています。



快適な空間と彩りのある暮らしを

住江織物グループは136年にわたって常に社会のニーズを探り、よりよい製品づくりに努めてまいりました。これからもテキスタイルメーカーとして、最先端の空間づくりに挑戦し続けます。

編集方針

本レポートは、あらゆるステークホルダーのみなさまに、当社グループが目指す経営戦略や事業・CSR活動の報告を通じて、総合的に当社グループへの理解を深めていただくことを目的として発行しています。

報告対象期間

2018年度(2018年6月～2019年5月)
但し、一部対象期間外の活動も含みます。

報告対象範囲

住江織物(株)ならびに国内外の連結対象子会社
但し、項目により対象範囲が異なります。

参考としたガイドライン

ISO26000(社会的責任に関する手引き)

発行年月

2019年12月(次回発行予定2020年12月)

目次

編集方針・目次	1	社会への取り組み	
トップメッセージ	3	従業員の成長と活躍	25
住江織物グループについて		お客様への価値創造	
事業セグメント別概況・成長戦略	5	「モノづくり」を通じた環境、社会への貢献	29
事業とグローバル拠点	7	顧客満足のさらなる向上(各部門納入実績)	31
特集		地域社会とのコミュニケーション(社会貢献活動)	35
1 住江織物グループとSDGs	9	環境への取り組み	
2 グローバル展開 海外事業所紹介	13	環境マネジメント～KKR+Aのテーマのもとに	36
成長を支える基盤		第5次中期行動目標-エコチャレンジ2020-	38
CSRへの取り組み		エコチャレンジ2020(2018年度実績)	39
住江織物グループの経営理念とCSRの体系	15	コラム／編集後記	42
2018年度のCSR活動実績	17		
ガバナンスの強化			
コーポレートガバナンス	19		
コンプライアンスの徹底	21		
リスクマネジメント	23		

持続可能な社会に 応え続ける企業を追求します。



はじめに

2019年5月、新たな時代「令和」がスタートしました。当社グループは、明治の創業時から人々が集う住まいや室内空間、車内空間などを快適にし、暮らしに彩りを添えてまいりました。幕を開けた令和の時代も、そしてその先々においても、当社は事業の成長と、持続可能な社会への貢献を目指してまいります。

中期3ヵ年経営計画「2020」の進捗について

2017年6月から第5次中期3ヵ年経営計画「2020」をスタートし、「企業ガバナンスの再構築」と「事業の成長」のテーマのもと、諸施策を推進しております。

企業ガバナンスの再構築

引き続きコンプライアンス遵守ならびに管理体制の見直しのため、経営幹部と従業員の双方向コミュニケーションを図っております。また、収支や在庫をタイムリーに把握して経営判断に活かし、効率的かつ効果的なモニタリングを行うべく、グローバルで基幹システムの再構築を進めております。今後、システム再構築の第一段階で得られた知見をもとに各部門の実態に即した改善を行い、全社へ本格的に展開していきます。

2019年7月には、取締役会の諮問機関として「指名・報酬委員会」を設置しました。取締役会の指名や報酬などに

関する評価・決定プロセスを透明化・客観化することで監督機能の強化を図り、コーポレートガバナンス体制をより一層充実させてまいります。

事業の成長

お客様のニーズに柔軟かつタイムリーに応えるべく、「取扱い商材の拡大」「グローバル化の強化」「高付加価値商材の開発・販売」の3つの軸で果敢にチャレンジしております。

「取扱い商材の拡大」では、自動車内装材における新素材のシート地の提案や、インテリア事業では、本物の木材や石材のような外観の硬質床材など、従来のファブリックの枠を超えた高機能商材を拡充しております。また、「高付加価値商材の開発・販売」では、開発担当と営業担当による新規商材開発会議に加え、先端分野の展示会などにも積極的に出展し、外部機関との共同研究を加速させるなど、オープンイノベーションを活用しながら商品化に注力しております。

社会のニーズへの対応

「企業は社会の公器」と言われるように、企業はいつの時代も社会に役立ち、社会が価値を認める存在でなければなりません。明治の創業当時、当社は帝国議会議事堂や鉄道といった社会の近代化のニーズに応える形でビジネスを開始しました。その後も、時代のニーズを先んじて捉えつつ、世の中の動いていく方向へ軸足を置いて事業を拡大してきました。

現在では、投資家が投資先企業を選ぶ際の新たな指標としてESG(環境・社会・ガバナンス)への注目が高まっています。また、パリ協定やSDGs(持続可能な開発目標)が採択されるなど、世界が大きく動き出していますが、当社グループは20年以上前から環境商材の拡販や健康分野に貢献する技術開発に取り組んでおり、高まる環境対策や持続可能な社会に対するニーズに応えております。例えば、2011年に発売した当社の主力商品である水平循環型リサイクルタイルカーペット「ECOS®(エコス)」では、従来埋め立て処分するしかなかった使用済みタイルカーペットから新しいタイルカーペットの原料を生み出し、同一商品間でのリサイクルを実現することで、世界でも類を見ない最大84%という高い再生材比率を達成しております。ECOS®は、これまでに経営基盤として培ってきた「K(健康)K(環境)R(リサイクル)+A(アメニティ:快適さ)」の理念のもとに結実したエコ商品であり、SDGsの目標のひとつである「つくる責任 つかう責任」に合うものです。

今後も常に社会のニーズを探り、よりよい製品づくりに努めてまいります。

人的パワーの最大化への取り組み

今後50年、100年と当社が変革し、成長していくために人材育成は欠かせません。日本では人材不足、子育てや介護による離職が問題化してきていますが、社員を守るのは会社の責任でもあります。当社グループでは性別・年齢・国籍を

超えて多様な人材がいきいきと活躍できる環境をつくることに注力するとともに、30代、40代を中心としたミドル層のレベルアップを重点的にを行い、次代を担う人材づくりを進めております。また、働き方改革の一環として、ITによる効率化の推進や、ワークライフバランスの実現に努めております。

外部コミュニケーションの促進

企業活動を進める上で、ステークホルダーのみなさまからの「信頼」を最も大切に考えており、当社グループについてよりご理解いただけるよう外部コミュニケーションの促進を図っております。2019年には、これまでより情報を充実させることを目的に、住江織物グループ各社のホームページを刷新しました。また、2019年4月から大阪、東京のショールームにて、「住江織物株式会社 鉄道車両内装の歴史展」を開催しております。

ステークホルダーのみなさまとのコミュニケーションを積極的に行い、当社グループについてのご理解を得るとともに、様々な価値を提供することでよりよい関係を築いていきたいと考えております。

時代によって求められる「快適さ」や「暮らし」の姿は変わります。いつの時代でもそれらを追求し、実現してまいります。

2019年12月

住江織物株式会社
代表取締役会長兼社長

吉川 一三